

平成28年度 学校関係者評価委員会資料

学校法人経専学園
 経専北海道保育専門学校
 学校関係者評価委員会

1. 開催日時

平成29年9月6日（水）15時00分～16時30分

2. 開催場所

経専北海道保育専門学校

3. 出席者

	選任区分	人数	役職名
外部関係者	企業関係者	1名	保育園園長
外部関係者	卒業生	1名	福祉施設職員
学校側	学校教職員	3名	部長、部長代理、広報事務課長

4. 学校関係者評価委員会 次第

- ① 開会
- ② 部長挨拶
- ③ 平成28年度における自己評価の報告
- ④ 討議・意見交換
- ⑤ 閉会

5. 討議・意見交換

- ①自己点検・評価報告及び討議・意見交換

※評価＝適切…4、ほぼ適切…3、やや不適切…2、不適切…1

(1) 教育理念・目標

(1) - ①理念・目的・育成人材像は定められているか <p style="text-align: right;">自己評価： 4、委員会評価： 4</p>
学園基本理念である「学生第一主義」を念頭に置き、学生が就職3年後に「学校で身につけた専門的な基礎知識・技術を駆使しながら、社会人基礎力を磨き、職場で重要な戦力となり活躍している」ことを育成目的とし、これらをカリキュラムなどの教育内容に反映させている。
(1) - ②学校における職業教育の特色は何か <p style="text-align: right;">自己評価： 4、委員会評価： 4</p>
教育目標に掲げる「専門職業力（専門職としての基礎力）」「社会人基礎力（社会人としての基礎力）」「高い職業意識と意欲（プロ意識と成長・自己実現に向けた意欲・力）」の現場力3要素を修得させるために、専門知識系科目と専門技術系科目及びその他必要な科目を体系的に編成し、座学、実習等を適切に組み合わせた授業を開講します。
(1) - ③理念・目的・育成人材像・特色などが学生・業界関係者・保護者等に周知されているか <p style="text-align: right;">自己評価： 4、委員会評価： 4</p>
ホームページ、ガイダンス、各種説明会、年3回の保護者への通知等で周知を図っている。

○課題

- ・特になし。

○今後の改善方策

・特になし

○各評価委員からの意見・指導

・特になし

(2) 学校運営

(2) - ①目的等に沿った運営方針が策定されているか	自己評価： 4 、委員会評価： 4
設置法人が定める運営方針に基づき、当該専門学校の方針、目標、組織体制を定めている。運営方針は毎年4月に実施される、学園方針説明会にて発表し、周知徹底されている。	
(2) - ②運営方針に沿った事業計画が策定されているか	自己評価： 3 、委員会評価： 3
学園方針説明会にて示された重点課題目標に沿って、具体的な実施計画を策定している。毎月の重点計画会議にて重点課題項目毎に達成状況の報告及び未達成項目についての具体的取り組みの報告を行っている。	
(2) - ③運営組織の意思決定権は、規則等において明確化されているか、有効に機能しているか	自己評価： 3 、委員会評価： 3
就業規則及び業務分掌表にて明確化されている。毎週行われる教務会議及び毎月行われる重点計画会議にて全職員が情報を共有し、決定事項については原則、会議にて決定する。	

○課題

・特になし。

○今後の改善方策

・特になし

○各評価委員からの意見・指導

・特になし

(3) 教育活動

(3) - ①教育理念等に沿った教育課程の編成・実施方針等が策定されているか	自己評価： 4 、委員会評価： 4
卒業までの授業科目計画及びシラバスが配布されている。	
(3) - ②教育理念、育成人材像や業界ニーズを踏まえた学科の修業年限に対応した教育達成レベルや学習時間の確保は明確にされているか	自己評価： 4 、委員会評価： 4
専修学校設置基準に定められた年間800時間以上、課程の修了に必要な総時間数1,700時間以上を確保しており、学則に明記している。	
(3) - ③学科等のカリキュラムは体系的に編成されているか	自己評価： 3 、委員会評価： 3
カリキュラムは、保育士や幼稚園教諭等の資格取得の必須科目（法的に定まっている）と業界のニーズを踏まえた実技・実践科目から成っている。	
(3) - ④キャリア教育・実践的な職業教育の視点に立ったカリキュラムや教育方法の工夫・開発などが実施されているか	自己評価： 3 、委員会評価： 3
実技・実践科目のカリキュラムは、保育現場の意見を取り入れながら見直しを行っている。教育課程編成委員会を開催し、現場のニーズを確認しながらカリキュラム編成を行った。教育方法については、前後期に教職員による授業参観を実施し、教授方法の見直しを図っている。また、幼稚園と養成校の懇談会や全国保育士養成協議会の研修、北海道私立専修学校各種学校連合会主催の教員研修等に参加し、定期的且つ組織的に工夫、研究を行っている。	

(3) ⑤授業評価の実施・評価体制はあるか

自己評価： 3 、委員会評価： 3

学生が科目単位で授業を評価する授業満足度アンケート（5点満点）を年2回実施し、教員の教授レベルの確認と評価を行なっている。平成28年度の結果は、専任及び非常勤教員の平均値は4.72、専任教員に限定すると4.88と非常に高い結果となった。

○課題

- ・学習サポート校である豊岡短期大学通信教育部の学習が高等学校の学習スタイルと異なり、レポート作成や記述式試験など文章作成する機会が多く、戸惑いを感じる学生が多い。徐々に慣れていくことになるが、文章をまとめる能力が年々落ちてきており、レポートをうまくまとめられず再提出となるケースや、試験問題を適切な文章で回答できずに不合格・再試験となるケースが増えてきている。

○今後の改善方策

- ・全道各地様々な高校から入学しており、学生の理解力には差があるため、レポートや試験に対する対策を手厚く行う必要がある。授業の展開も学生の理解度を頻繁に確認しながら進めていくことが必要となる。
- ・日常的に学習する習慣があまりない学生もいることから、クラス運営を行う際にはレポートや試験に対する学習は、クラス全員で取り組むよう導き、自然と学習に取り組む環境を整えることとする。
- ・通常授業以外に特別授業を設定し、再試験対策を行う。

○各評価委員からの意見・指導

- ・満足度アンケートの結果を単純に見ると非常に高い数値となっているので、一般的な評価は適切のような気がするという意見をいただいたが、更なる向上を図っている状況であることを説明し理解いただいた。
- ・卒業生の委員からは、シラバスや学生便覧などの内容が当時より数段向上しているように感じるというご意見をいただいた。

(4) 学修成果

(4) ①就職率の向上が図られているか

自己評価： 3 、委員会評価： 3

就職率を①専門職決定率（学んだ分野への内定者数）②全体決定率（就職希望者に対する就職率）③対象外率（就職を希望しない人数）に分類し、それぞれに目標を設定しながら学生の就職活動を支援している。平成28年度の結果は、卒業者168名、就職希望者166名、就職決定者166名、専門職決定者163名で、①専門職決定率目標98.8%に対し98.2%(就職決定者166名中専門職163名決定)、②全体決定率目標99.4%に対し100%(就職希望者166名中166名決定)、③対象外率目標3名以内に対し2名
専門職就職率が目標を下回ったが、概ね就職は好調であった。求人も非常に多く、学生にとっては恵まれた環境である。

(4) ②資格取得率の向上が図られているか

自己評価： 3 、委員会評価： 3

資格取得率の推移を分析し、資格取得率の向上を図る取り組み（単位修得を目的とする取り組み、単位実習をクリアするため取り組み）を検討し実施している。平成28年度の資格取得率は、こども学科98.1%（昨年98.8%） こども未来学科96.8%（昨年99.4%）となっており、前年度を下回った。

(4) ③退学率の低減が図られているか

自己評価： 2 、委員会評価： 2

前年度の実績を基に、毎年目標を設定しながら退学率低減に取り組んでいる。平成28年度は13名の目標でスタートしたが、結果15名と目標を達成することができなかった。進路変更、経済的理由、病気等による理由は例年と同様だが、資格取得の意欲や学校継続の意欲を失い退学に至るケースが増えてきている。また、想定していない卒業年次の退学も2名おり、最終的に目標未達となっている。担任による個別面談、毎週の職員会議での情報共有などの取り組みは行ってきたが結果に結びつけることは難しかった。

○課題

- ・就職については学生にとっては恵まれた環境であるものの、苦勞して取得した資格を活かす専門職を希望しない学生をゼロにできないもどかしさがある。
- ・資格取得については幼稚園実習での躓きから幼稚園教諭免許を取得できなかった学生が7名も出てしまった。保育士資格まで両方の資格を取得できない学生はいなかったものの、厳しい結果となった。
- ・前期の早い段階で退学してしまうケースでは、面談すると入学の動機が本人の意思よりも周囲から勧められたという学生が多く、別にやりたいことがある、保育に全く興味がないなど学校継続に気持ちを切り替えることは出来なかった。

○今後の改善方策

- ・就職希望調査から本人の就職希望状況を把握し、専門職への意識が低い学生については、保育士や幼稚園教諭免許を活かし活躍できる職種をできるだけ多く提示し、本人の希望に合いそうな求人と一緒に探していく個別対応を行う。
- ・資格未取得になるケースは、実習が大きな要因となるため、実習前の指導で実習中に予想されることなどを具体例を示しながら伝える。また、心配な学生については、実習中のケアをしっかりと行っていく。
- ・クラス担任は、学生との個人面談にて個々の学生を把握するとともに、クラスの目標を考えさせ目的意識を持ちながら学校生活をおくる環境づくりを行っていく。また、頻繁に教室へ赴き学生とのコミュニケーションを密にとりながら、相談しやすい雰囲気を作っていく。

○各評価委員からの意見・指導

- ・就職状況の結果から判断すると非常に良い結果のように思うので、評価は4で良いのではないかというご意見をいただいた。本校は、全員を専門職に就職させるという思いで取り組んでおり、2名の就職対象外、3名の一般職就職という結果は指導が至らなかった部分であると認識しており、4点の評価には至らないということを理解していただいた。

(5) 学生支援

(5) - ①進路・就職に関する支援体制は整備されているか

自己評価： 4 、委員会評価： 4

クラス担任、就職担当者によるダブル支援体制をとっており、全ての学生を専門職に就職させることを目標にしている。また、過去の就職試験内容が閲覧可能となっており、受験先に即した個別面接指導も実施している。就職希望調査により学生の希望を把握し、個々の状況に合わせた指導を行っている。基本的に就職活動に関しては、学生任せにすることはなく、学校が学生の状況をしっかり把握した上で、相互に納得した就職活動を行っている。

(5) - ②学生相談に関する体制は整備されているか

自己評価： 3 、委員会評価： 3

クラス担任は学生との個人面談を最低年2回実施しており、学生からの相談に対応している。また、事務職員を含む学校内の全ての教職員が積極的に学生に対して声がけを実施し、担任以外でも気軽に相談できる環境を目指している。これ以外にも、学校内にカウンセリングルームを開設し、年11回開催している。

(5) - ③学生に対する経済的な支援体制は整備されているか

自己評価： 3 、委員会評価： 3

学校独自の奨学生制度（入学時、進級時）や学費分納制度、経専学園学費応援制度など複数の支援体制にて対応している。近年、経済的に困窮している世帯も多く、学費納入に関して画一的な納入方法ではなく、個々の事情に合わせた提案を行っている。

○課題

- ・経済的な事情は家庭により多種多様であり、事務局の対応も複雑になってきている。卒業年次では就職活動に影響が出るため、学生へのケアも大切になっている。
- ・最近では心の病を抱えた学生が増えてきている。素人判断できないケースもあり、対応に苦慮している。

○今後の改善方策

- ・前期と後期の切り替わり、進級時、卒業認定などの節目に合わせて適切な納入プランを提示することが必要である。学費未納により就職活動に制限がかかる学生に対する説明は家庭とも話をしながら慎重に行わなくてはならない。
- ・保護者や高校の先生にも高校時の様子などを確認しながら対応する。

○各評価委員からの意見・指導

- ・心に問題を抱えている若者が増えていることは、現場に於いても実感しているところである。学校としても学習支援や就職支援などに苦勞されている状況はよくわかるが、明確な解決方法があるわけではないので、地道なサポートを実施してもらいたい。

(6) 教育環境

(6) -①施設・設備は教育上の必要性に十分対応できるよう整備されているか
自己評価： 3 、委員会評価： 3
個室のピアノレッスン室、電子ピアノ室、音楽室、手芸室、製作室、パソコン室、体育館、乳児保育室、図書室など専門的な知識・技術を習得するための設備は整っている。備品の購入、ピアノ調律は適宜行い、適切な学習環境を整えている。
(6) -②学内外の実習施設について十分な教育体制を整備しているか
自己評価： 4 、委員会評価： 4
学内の実習施設については、カリキュラムに対応する内容を整えている。学外の実習施設については、単位実習基準を満たす実習先を確保している。
(6) -③防災に対する体制は整備されているか
自己評価： 3 、委員会評価： 3
火災防火の為の組織及び自衛消防隊の組織編成を行なっている。年1回の消防訓練においては教職員に対して消火器訓練も実施している。

○課題

- ・パソコン室のノートパソコンのOSが古く、ソフトの操作方法が現状に合っていない。
- 今後の改善方策
- ・3月末にパソコン室のパソコンを全て最新のノートパソコンへ変更した。
 - ・実習教室の機材・設備等は、必要に応じ補充や交換・調整を行っており、今後も最新の技術習得のため、常に良い教育環境を整えて行く。
- 各評価委員からの意見・指導
- ・特になし

(7) 学生の受入れ募集

(7) -①学生募集活動は適正に行なわれているか
自己評価： 4 、委員会評価： 4
北海道私立専修学校各種学校連合会に加盟し、募集開始時期・募集内容等、同会の定めた規則を遵守している。
(7) -②学生募集活動において、教育成果は正確に伝えられているか
自己評価： 3 、委員会評価： 3
カリキュラムや就職実績など正確な情報を受験者に提供することを心がけ、入学案内の内容は毎年見直しをしている。また、公表する数字の根拠を明確にし、誇大広告にならないよう自己点検している。
(7) -③学納金は妥当なものとなっているか
自己評価： 3 、委員会評価： 3
毎年、学科単位で経費をチェックし学納金の見直しを実施している。その際、他校の学納金とも照らし合わせ適正度を確認している。

○課題

- ・平成29年度入学生については、募集定員160名に対し118名と厳しい結果となった。18歳人口の減少、保育分野離れ、高校の進路指導方針が大学進学を強く勧めるようになってきている等の理由から、今後も厳しい状況は続くと思われる。

○今後の改善方策

- ・保育士不足による求人増については、ある程度認知されているように感じるが、保育士の待遇（低賃金）については、大げさに報道されるため間違った認識をされているように思われる。現状の求人票に提示している給与水準が、他の業界と遜色ない事、むしろ処遇改善により高い水準になってきている現状を、高校教諭や保護者の理解も得られるようにする。

○各評価委員からの意見・指導

- ・保育士の処遇改善は進んできている。世間一般に蔓延している、保育職は待遇が悪く激務であるという誤解を解消したい。現場は著しい保育士不足で非常に困っている。一人でも多くの若者に保育者を目指してもらおうよう、専門学校として頑張ってもらいたい。

(8) 財務

(8) -①中長期的に学校の財務基盤は安定しているといえるか

自己評価： 3 、委員会評価： 3

平成29年度入学生は、募集定員を下回る結果となっているが、経費の削減なども同時に行い、財務状況は危機的状況にはない。保育業界を志望する高校生は減少傾向にあるが、まだまだ根強い人気業種でもある。国の施策でも筆頭に挙げられている分野でもあり、今後も一定の入学生は確保できると思われるため、中長期的に安定していると考ええる。

(8) -②予算・収支計画は有効かつ妥当なものとなっているか

自己評価： 3 、委員会評価： 3

予算・収支計画は設置法人の総務財務室で一括整備・管理している。学校から提出された予算書を基にチェック・アドバイスが行なわれ、理事会での承認後、執行されている。

(8) -③財務について会計監査が適正に行なわれているか

自己評価： 4 、委員会評価： 3

私学振興助成法に基づく公認会計士（監査法人）による監査及び私立学校法に基づき、法人寄付行為第34条による監事による監査を実施し、この結果を監査報告書に記載し、理事会及び評議委員会へ報告をしている。

○課題

- ・特になし。

○今後の改善方策

- ・特になし。

○各評価委員からの意見・指導

- ・特になし

(9) 法令等の遵守

(9) -①法令、専修学校設置基準の遵守と適正な運営がなされているか

自己評価： 4 、委員会評価： 4

法令を遵守し、適切な運営を行っている。

(9) -②個人情報に関し、その保護のために対策がとられているか

自己評価： 3 、委員会評価： 3

個人情報に関しては、細心の注意をはらうよう職員に徹底周知している。就職情報等についての公表資料については、学生より同意書をいただいている。

(9) -③自己評価の実施と問題点の改善を行っているか

自己評価： 3 、委員会評価： 3

自己評価にて課題を発見し、改善方策を検討し実施している。

○課題

- ・特になし。

○今後の改善方策

- ・特になし。

○各評価委員からの意見・指導

- ・特になし

(10) 社会貢献・地域貢献

(10) -①学校の教育資源や施設を活用した社会貢献・地域貢献を行っているか 自己評価： 3 、委員会評価： 3
地域の子育て支援の一環及び学生の学びの場として「保専ひろば」を定期的で開催している。
(10) -②学生のボランティア活動を奨励、支援しているか 自己評価： 3 、委員会評価： 3
保育所、幼稚園、福祉施設などからのボランティア依頼は事務局が窓口となり、依頼があれば学生に周知、斡旋している。
(10) -③地域に対する公開講座、教育訓練（公共職業訓練を含む）の受諾等を積極的に実施しているか 自己評価： 3 、委員会評価： 3
姫路大学通信教育一般生の試験会場、スクーリング会場として校舎を提供している。

○課題

- ・ボランティアの依頼は沢山いただいているが、学生数の減少に伴いボランティアに参加する学生は減少傾向にあり、参加者を出せないケースも多い。

○今後の改善方策

- ・ボランティアから職種理解、社会貢献の意識などが高まるため、掲示板への掲示だけでなく積極的に学生に働きかけ、一人でも多くの参加を促す。

○各評価委員からの意見・指導

- ・幼稚園教諭免許を更新手続きの申込みに苦労している。（会場が一杯で予約がとりにくい）経専北海道保育専門学校を免許更新の受講会場として依頼があった場合は、提供できるかのご意見があった。日程的に問題なければ可能であるが、講習の詳細などを調べてみることにする。

以上